

研究課題:感染や組織傷害による自然免疫能活性化と甲状腺自己免疫疾患の関連

研究代表者:医療技術学部臨床検査学科 教授 鈴木幸一

研究紹介:主に、1)甲状腺の濾胞機能調節機構や自己免疫疾患発症機序、2)ハンセン病やブルーリ潰瘍などの抗酸菌感染症、3)核酸による自然免疫活性化機構と病態との関連、の3つの研究を柱として幅広い研究を行っている。

1)に関しては、濾胞内に蓄積する thyroglobulin が、ホルモン合成や分泌を調節する、強力な内在性 autocrine negative feedback 調節因子であることを明らかにし、その詳細について研究を行っている。

2)では、日本医療研究開発機構 (AMED) の研究代表者として、西アフリカにおけるブルーリ潰瘍を初めとする皮膚の「顧みられない熱帯病」対策として、検査法や治療法の開発等の研究を行っている。また、国内外におけるハンセン病の啓発や後遺症対策、およびらい菌の細胞内寄生機構等の基礎研究を行っている。

3)では、2本鎖構造を持つ右巻きの DNA が、自然免疫や獲得免疫反応を誘導することを初めて報告して以来、その生理作用や病態との関連について研究を進めている。

【関連リンク】

鈴木幸一研究室 HP <http://plaza.umin.ac.jp/suzuki-lab/index.html>